

入れ歯製作の分業化を進め、 人材不足に悩む歯科技工所を支援



運営する歯科技工所の様子



3次元データで製作したクラスプ



新導入した3Dプリンター

事業内容

トップレベルの技工士が活躍

歯科技工所を大阪と東京の計3カ所に構え、地域の歯科医院から依頼を受けて、義歯（入れ歯）やクラウン（差し歯）を製作している。

平成9年2月、高岡智也社長が「歯科技工士の知識や技術の向上を通して、彼らの社会的地位を高めたい」と会社を設立した。東京に置く技工所「グローバルリンク」は、素材や品質にこだわる保険適応外のクラウン製作を専門にしており、トップレベルの技術者を数多く抱える。労働条件や職場環境を整え、技工士が働きやすい会社づくりも進めている。

デジタル化や機械化を推進

これまでも「ものづくり補助金」を活用しながら、歯の3次元データを基にした製作技術の高度化や、作業の機械化に、早い時期から取り組んできた。国際的な展示会や学会に社員を派遣し、最新の歯科技術や素材の調査にも力を入れる。

補助事業

CAD/CAM冠が保険適用に

平成26年4月、「CAD/CAM冠」と呼ばれる差し歯が健康保険の適用になった。CAD/CAM冠は、歯型をスキャンして、コンピューター上で歯の形を作り、そのデータを基に機械で削り出す。新人が簡単に製作でき、従来より高い価格で販売できるため、義歯を専門としていた技工所がCAD/CAM冠の製作へとシフトするケースが目立ち始めた。これにより、義歯の技術者不足という事態も起きている。

義歯製作工程に企業間分業を

差し歯とは違い、義歯は今も職人の手作業で製作される。そのため、すべての工程を1つの技工所で担う。技工所の大半は5名未満の零細事業所で、高齢化も進んでおり、デジタル化や機械化に対応するための設備投資も簡単ではないという。

そこで企業間分業という仕組みを取り入れ、一部作業を同社が引き受けることで、義歯専門技工所をサポートするサービスを作ろうと、今回「ものづくり補助金」を申請した。

具体的成果

3Dプリンターでロウ型製作

同社が引き受けるのは「クラスプ」と呼ばれる義歯固定のための金具の製作。歯の3次元データのやり取りを可能にするための義歯用CADソフトや3Dスキャナー、3次元データを基にクラスプを製作するための3Dプリンターや金属加工機を新たに導入した。

これまでクラスプは、歯の模型を基に、技工士がロウを使って手作業で形を作り、そのロウ型を基に金型を製作し、そこに溶けた金属を流し込んで鋳造していた。今回、このロウ型の製作工程を一新した。まず歯の模型をスキャナーで取り込んで、3次元データ化し、義歯用CADソフトでクラスプを設計。3Dプリンターを用いてプリントアウトしたものをロウ型として使う。また、金属加工機は、鋳造加工が難しいチタン素材を切削加工するのに用いる。

歯ぐき製作を機械化

今後、クラスプを含めた義歯全体の製作依頼も増える見込まれることから、それに対応するため、一部作業の機械化や設備の増設も進めた。義歯の歯ぐき部分は、石膏の型に専用の樹脂を流し込んで成型するが、この工程に自動化装置を導入した。焼成炉や鋳造機なども増やした。

今後の戦略

東南アジアからの受注も目指す

多くの技工所がCAD/CAM冠の製作に参入したことで、歯型を3次元データ化するための3Dスキャナーの普及が一気に進んだ。このスキャナーを使用して、同社にデータを送り、クラスプ製作を任せる。技工所はそれ以外の歯ぐきなどの製作に人材や資源を集中できるため、経営の効率化が図れる。このサービスを知った技工所から、依頼や問い合わせがすでに届いているという。高岡社長は「社内で、技工士の配置や増産体制を整えることで、半年以内にサービスを本格的に始めたい」と語る。

今後は、シンガポールやベトナム、マレーシアなど、東南アジアからの受注も目指すという。

引き続き技術者を育成

義歯や差し歯は、それぞれの患者の口腔内に合わせて作る“完全オーダーメイド製品”。その製作には数マイクロメートル単位の精度が求められ、常に熟練職人の技術に支えられてきた。デジタル化や機械化が進んでも、その技術と知識は、絶対に必要だと高岡社長は強調し「歯科技工士の役割を果たし、治療現場の医学的要望に応え続けなければならない」と力を込める。今後も技術者の育成は、手を抜かないつもりだ。

株式会社 リック

代表取締役社長 高岡 智也

〒530-0047 大阪市北区西天満3-1-6

辰野西天満ビル1F

TEL. 06-6316-7551 FAX. 06-6316-7552

資本金/100,000千円 従業員/99名

主な取引先/歯科医院(東京、大阪、神戸など)

主力製品/歯科技工物(義歯、クラウン)

短納期 企画力 小ロット OK オンライン 生産 OK 海外 対応 試作 OK 連携力

創業精神（改革・変革・創造・核）を基盤に グローバル企業へ！

代表取締役社長 高岡 智也

コンピューター化や機械化の進展で、事業形態や業界構造は根本から変化するでしょう。経験や勘だけでなく、デジタル技術にも精通した技術者集団を核に、世界に通用するビジネスモデルを創造していくつもりです。



取材を終えて

何を刷新し、 何を次世代に伝えるか

社名の「リック (RICC)」は、「Revolution (改革)」、「Innovation (変革)」、「Creation (創造)」、「Core (核)」の頭文字を取った。CAD/CAM冠は「産業革命」、「黒船来航」といわれ、歯科技工業界は大きく揺れている。変化に乗じて、効率や便利さ、利潤だけを追求すれば、ハンドメイドの技や職人気質はあっという間に失われるだろう。果実の中で、種子をつつむものを核という。何を刷新し、何を次世代に守り伝えるのか。リックの挑戦を見守りたい。

<http://ricc-web.co.jp/>